
あなたの魂買います

蛇喰奴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたの魂買います

【Nコード】

N2654A

【作者名】

蛇喰奴

【あらすじ】

何気無く入った店。そこは天国のような場所だった。

あれは今年の一月だったか…
潰れかけたビルの入り口に、奇妙な看板をみつけた。

『あなたの魂買います。』

新年会で酔っていたのも手伝って、何気なく入ってみたのが事の始まりだった。

薄暗い廊下を歩くと、受付に20代後半の女性がいた。かなりのプロなのか、その笑顔には不自然な所はなく、私は吸い込まれるように彼女の方へと歩いていった。

「いらっしやいませ。おまちしておりました」

予約していたわけでもないのに、おまちしておりました、と、まるで私が来るのを知っていたかのような態度が印象的だった。

「では、お部屋へご案内いたします。こちらへどうぞ」

巧みな誘導にただ流されて、西洋風のドアの前で立ち止まった。

「こちらになります」

その部屋は8畳ぐらいで、麻のじゅうたんが敷かれてあり、その上にベッドがあるだけのシンプルな作りだが、ラベンダーとカモミールルの混ざったような甘い香りがほのかに漂い、落ち着ける雰囲気だった。

入るなり中に居た20代前半ぐらいの見たこともないぐらい美女

が、私の手を掴みベッドへ寝かす。

仰向けの体を撫でるように美女が全身を這う。次第に興奮する私の唇を奪うと、その綺麗な細い手でそつと目を閉じさせる。

瞼の向こうでおきている美女の誘惑に体はほてり、時間とともに静まり、いつしか私は眠っていた。

ふと目をさますと私は裸だった。私の横で美女も裸でこちらを向きニツコリとしていた。

何があつたのかもわからぬまま服を着ると

「おつかれさまでした。素敵だったわあなた。またいらして下さい。」

裸の私が裸の美女の隣に寝ていた。あの空白の時間、何がおこつたのだろうか。

先程の受付で2万円を支払った。

酔いは完全にさめて、長い睡眠からさめたようなスッキリした感覚。ただ謎は深まるばかり

来る日も来る日もあの空白の時間を考えた。でも彼女の笑顔だけが邪魔をする。

またあの店に行こうと思ったのは、1週間後だった。

受付の慣れた自然な笑顔。妙に落ち着く部屋。美女。そして深い眠りにつく。また目覚める。全て同じ。

会計は4万だった。

それから1ヶ月、1度も他の事を考えられなかった。またあの店に足を運んでみた。

が、そこに看板はなかった。ビルも取り壊されていて、空き地があっただけだった。

それでも街を歩けば通りすぎる女性を彼女と重ね、妄想にふけっては罪悪感を覚え。もう忘れようと山にこもった。

森の妖精の夢を見ては彼女と重ね語りかけて…

落ち葉の上に寝そべっては、彼女を想い…

気が付くと鬱病になっていた。

木に頭を打ち付け、血だらけになつては、我に返り…

枝を折って体をいたぶっては、我に返り…

私は美女に魂を抜かれた。誰も足を踏み入れる事の無い山奥で、何も考えずさまよい。ボロボロになりながら虫を摘み、虫に摘まれ、それでも立ち上がるゾンビ。

私は美女に魂を抜かれた、哀れなゾンビ。

虫を摘み、虫に摘まれる哀れなゾンビ。

私は美女に魂を売った、哀れなゾンビ。

我を傷つけ、我に返る、哀れなゾンビ。

あなたの街に『あなたの魂買います』という看板はありませんか？それは天国模様の地獄の入り口かもしれませぬよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2654a/>

あなたの魂買います

2010年11月16日08時37分発行